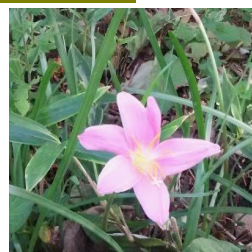


薬用植物園かわらばん

皆さ〜んちょっと覗いてみませんか？
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2018年
9月10日
第51号



シキミ（マツナギ科）

園内、第三圃場の奥で今、果実が見られます。暖温帯に分布する常緑小高木です。仏壇や墓に供えたり、葬式の花に使われます。寺や墓地に植えられるのは、古代の名残りで、土まんじゅうにした新墓地に狼がおそいかかるのを防ぐため、墓地のまわりにシキミの枝を刺した事から始まったとされています。栽培はほとんどなされずに山で採取されるので、絶滅した産地も多くあります。全木有毒で、特に果実はアニサチンを含み毒性が強く、食べると死亡することもあるようで、注意が必要です。また、葉や樹皮から抹香が作られます。シキミにはシネオール、オイゲノールなどの精油成分を含み、カラスはシキミの匂いを嫌がり寄り付きません。中華料理でスパイスとして使用される大茴香は、トウシキミと呼ばれる近縁種の果実で、それに含まれるシキミ酸をタミフルの製造原料にします。

サフランモドキ（ヒガンバナ科）

管理棟の前で数個体見られます。中南米、西インド諸島が原産。江戸時代末期に、パイナップルの輸入時に栽培土に種子が混入していたことから日本に渡来したとされています。当初は、この植物が薬用サフランと誤認され、「サフラン」の名で呼ばれていたところ、明治時代初期になって本物のサフランが輸入されるようになり、誤りであることがわかったことからこちらのほうに「モドキ」が付けられ、サフランモドキが正式な和名となりました。タマスダレ属に属し、そのラテン名ゼフィランサスとも呼ばれます。ヒガンバナ科の植物は種々のアルカロイドを含み、サフランモドキからも単離されていますが、この植物が伝統医療に用いられたケースは知られていません。大きなピンクの花が魅力的で、今のところは鑑賞用のみです。

今、こんな草木が楽しめますよ！！